

多気町教育委員会

<所在地>

〒519-2181 多気郡多気町相可 1587 番地 1

TEL 0598-38-1121

I 事業のねらい

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちを取り巻く課題の解決や、子どもたちの豊かな成長の支援ができるような「地域とともにある学校づくり」を目指す。多気町では、今年度は勢和中学校・勢和小学校における校区コミュニティ・スクール（以下 CS と表記）を実施し、また新たに相可小学校・佐奈小学校で CS の導入を行った。令和 5 年度には町内すべての学校で CS を導入し、地域とともにある学校づくりを行うことが目標である。

II 具体的な取組例

1. 運営協議会の設置

勢和中学校区及び相可小学校、佐奈小学校において運営協議会を設置した。例として、勢和中学校区での取組は次のとおりである。

（1）勢和中学校区の取組

ア 令和 4 年度校区 CS 基本計画の策定

校区 CS 基本理念をもとに、本年度の校区 CS 基本計画を策定した。基本計画では、基本理念に則り学校組織運営を行っていくために、校区運営協議会の充実を図るよう、地域学校協働活動推進委員（以下推進委員と表記）をその事務局として位置付けた。さらに、地域学校協働本部にふるさと学習部、学習指導部、生活環境部の 3 部会を組織し、「地域とともにある学校づくり」を推進することとした。

イ 勢和中学校区運営協議会の設置

・委員構成

勢和中学校区運営協議会委員は、教育委員会が「学校運営協議会の設置管理に関する規則（平成 27 年 4 月 1 日施行）」に基づき任命した。

・年間活動計画

回	日時	協議内容
第 1 回	5 月 24 日 19:00～ 21:00	校区 CS 基本計画及び学校教育経営計画の承認 意見交流会 防災委員会の設置
第 2 回	9 月 13 日 19:00～ 20:45	経過報告 意見交流「校区 CS に期待すること」「地域の目指す子ども像」
教育委員会への中間報告会	12 月 6 日 16:00～	経過報告
第 3 回	12 月 6 日 19:00～ 21:00	経過報告 意見交換テーマ「来年度に向けた改善提案について」
第 4 回 (予定)	3 月 10 日 19:00～ 21:00	学校の自己評価をもとにした学校関係者評価

・学校関係者評価

学校は、学校教育経営計画及びマネジメントシートに基づき教育活動を展開し、自己評価として目指す学校像の実現に向けた PDCA サイクルによる達成度の評価、学校組織の強みと弱みを明らかにするアセスメントを行う。勢和中学校区運営協議会は、年間を通じて学校を見聞し、これらの資料をもとに、学校関係者評価を行い、学校に対して改善提案を行う。このことにより、学校評価に、より客観性をもたせ、継続的な改善の中で、学校教育活動を充実したものにする。

ウ 地域学校協働本部の設置**・推進委員の役割**

推進委員は、勢和中学校区運営協議会事務局として位置付けるとともに、地域と連携した取組について学校と地域のパイプ役として各種事前調整を図ること等を主な役割とした。

・勢和中学校区運営協議会との連動

持続可能な取組へとつなげるため、地域学校協働本部の3部会に教職員を配置したとともに、勢和中学校区運営協議会委員も所属し、勢和中学校区運営協議会と連動させた。

エ 企画会議の実施

年4回、推進委員、校長、教頭、校区CS担当、各部小中担当による校区CS合同企画会議を開催し、勢和中学校区運営協議会が有効的に機能するよう調整をしたり、校区CSの取組に関わる進捗状況を共有したり、小中連携教育の進捗状況を確認した。また、中学校・小学校それぞれにおいても毎月1回の会議を開催した。

2 「地域学校協働活動」の実施・運営について**（1） 勢和中学校区の取組****ア ふるさと学習部**

「総合的な学習の時間」を中心にふるさと学習を展開した。地域の魅力を発信することを目標に地域の方や企業と連携をしながら、各学年で進めた。

【中学校】

1年生では、「地域を識る」をテーマに防災の観点から「だれもが安心して過ごせるまちづくり」に取り組んだ。地域在住者による防災講演会、地域を回り危険な場所などをまとめたハザードマップ作成、避難所運営ゲームを実施した。また、社会福祉協議会、森林組合、消防署の方々の協力を得て、夏休みには聞き取り学習をおこなった。活動の集大成として、自分たちが学んだことや感じたことを、文化祭や勢和中学校区

学習発表会で地域に発信することができた。

2年生は、「勢和で動く」をテーマに「勢和魅力プロジェクト」を進めた。勢和の魅力をどのように発信していくのか、昨年度の学習から気づいた課題をもとに4つのグループ（イベント企画、広報、ものづくり、エンタメ）に分かれ活動した。県指定のPBL（課題型解決学習）を通じた新たな郷土教育推進事業の研究発表会で、活動内容について発表し、地域の新たな魅力を発見し、それと同時に新たな課題も見つけることができた。

3年生は、「勢和でつながる」をテーマに、1年生から続けているあじさいカフェの取り組みを発展させた。目標としていた三重テラスでの物産展は叶わなかったが、勢和地区の7つの事業所に協力いただき、イオンモール明和での物産展を行った。勢和の魅力を発信するために、地域のものを使った商品を開発する中で、さらに地元の良さを感じ、発信することができた。3年間の集大成として、勢和の魅力を盛り込んだ内容の劇を考え、文化祭で披露した。

**【小学校】**

地域の交流畑での大豆栽培、米作り体験を中心とし、児童が主体性を持って積極的に参加することができるように学習を行った。

低学年は、「勢和を感じる」をテーマに勢和小学校と地域の交流畑での活動を楽しんだ。

1年生は、大豆収穫やさつまいも掘り、2年生は、田んぼの草とり、大豆収穫、きな粉づくりを行った。また、1・2年生の枝

豆収穫では、SOCS（昨年度まで勢和小学校オリジナルコミュニティスクールであったため、その頭文字をとったもの）スタッフと食生活改善推進員の方たちに、収穫したばかりの枝豆を茹でてもらい試食した。

中学年は、「勢和に学ぶ」をテーマに、大豆栽培を中心に教科の学習を実生活・実体験と統合していった。3年生は、大豆の種まき、収穫、大豆選別、豆腐づくりを行った。また、JAの方に来ていただき、大豆から豆腐を作り、給食の時間に食べることもできた。4年生は、勢和図書館の司書に「大豆」の話を導入に「生きる」を大切にしたい授業を行っていただいた。また、日本の伝統食の知恵として、味噌汁を味わうこともできた。

高学年は、「勢和で学ぶ」「勢和で生きる」をテーマに、米づくり体験を中心とした学習や、勢和地域で生きてきたことへの感謝の気持ち、学んできたことの振り返りの機会としてきた。

5年生は、1年間を通して米作りを体験することができた。ボランティアの方を中心に、苗づくりから、田植え、稲刈り、脱穀、とうみまで行うことができた。

6年生は、6年間の集大成として、これまで自分たちが育ててきた、お米、味噌大豆を使ったメニューを考え、学年末に勢和定食を作る予定である。

イ 学習指導部

学力向上に向け、各教科担当からの要請をもとに年間計画を作成し、必要に応じて地域サポーターを要請した。

小学校5年生の家庭科のミシンの実習では、2人の地域サポーターの方に支援に入ってもらった。また、毎月、勢和図書館から小学校に来ていただき、各学級でお話し会をしていただいている。そして、定期的に小学校と中学校の授業を参観し合い、小中合同研修会ではそれぞれの子どもたち

の様子を交流している。

ウ 生活環境部

年間活動計画を作成し、活動は、生徒が行う事項、地域が行う事項、そして、生徒と地域が協働して行う事項に分けて計画を立てた。学校のプランターや花壇の整備、小学校と合同の菜の花の植えや刈り入れ、あいさつ運動を行った。

（2）相可小学校の取組

各学年で、地域の方や郷土資料館、JA等の協力のもと学習・体験を行った。

ア 1年生・2年生

サツマイモづくり、野菜づくり、黒田山で秋探し、校区探検、「たぬきの糸車」糸車体験（1年）

イ 3年生

育苗センター見学、田植え見学、塩水選、田んぼの観察、稲の学習、稲刈り見学、大豆種まき、収穫、脱穀、唐箕体験、町探検、昔の道具見学・体験

ウ 4年生

アユの放流、アユ調べ学習、多気町の偉人調べ学習、生家見学、奥伊勢資源化プラザ見学、多気浄水場見学

エ 5年生

いのちの学習（牛舎見学、いのちの学習のまとめ）

オ 6年生

薬物乱用防止教室、思春期講座

（3）佐奈小学校の取組

ア 地域のボランティアによる学習支援

- ・習字指導の補助（3年生～6年生）…月1日、書写の時間に書道の専門家にきていただき、毛筆の学習をしている。
- ・野菜の栽培、収穫（1年生・2年生）…生活の時間に、地域の農家の方に手伝っていただき、学級園で野菜を栽培している。
- ・鏡餅づくり（3年生）…国語の時間に学習した内容とつなげて、地域の方3名に手伝

っていただき、餅づくりを行った。

- ・稲づくり（５年生）…地域の農業生産者の協力を得て、田植えや稲刈りの体験、また、昔の脱穀機などを用意していただき、精米に至るまでの体験活動を行った。

イ 地域を知る学習支援

- ・アゼオトギリの観察（１年生）…環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠＢ類（EN）に指定されているアゼオトギリについて、地域の保存会の方に来ていただき、種の収穫を体験した。また、普段からアゼオトギリの手入れをしていただいている。
- ・歴史学習（３年生）…地域の方に案内をしていただき、佐奈小校区のお寺や神社、五桂池などについての学習をした。
- ・ミカン学習（３年生）…JA 多気郡の協力のもと、地域の生産者の方から、佐奈地区の産物であるミカンについて学習した。また、ミカン狩り体験もさせていただいた。
- ・牛舎見学（４年生）…地域の畜産農家の牛舎を見学し、牛の肥育について学習した。



ウ 地域事業所との連携による学習

- ・社会科の学習（３年生）…地域にある車のデザインをする会社を見学し、そのあと、自分で車のデザインや紙粘土を使った車作りを行った。また、キノコ生産会社の「ホクト株式会社 三重きのこセンター」を見学し、キノコの栽培について学習した。
- ・着付け教室（６年生）…地域にある呉服店に協力していただき、日本在来の衣服である着物について、学習するとともに、実際に、浴衣の着用を体験した。



エ 見守り支援

朝、３名の方に通学団とともに学校まで着ていただいている。また、社会福祉協議会から、地域の高齢者の方に、子どもの下校時間の見守りをお願いしてもらっている。放課後についても、低学年の下校までの時間を週２日、学校で学習支援や見守りをいただいている。

Ⅲ 取組の検証

１ 学校教育活動への支援について

（１）成果

勢和中学校区については、校区CSが今年度から本格実施となり、各校が今まで取り組んできた活動をベースとして、今年度も地域の協働のもと校区CSを進めることができた。保護者・地域の方たちの学校教育活動への思いも強く、校区CSの取組にも非常に協力的であった。

今年度新たにCSを導入した相可小学校、佐奈小学校においても、地域のために活躍する人の存在を身近に感じることができる体験は、子どもたちが自分の住んでいる地域を見直すよい機会となり、これまで続けてきた地域学習を更に深めることができた。

（２）課題

勢和中学校区では、小学校と中学校との間に校区CSに対する考えや認識に差があるため、地域の方との連携が上手くいかないことがあった。校区CSの意味を再確認していくことが必要である。また、地域サポーターの要請の仕方についての検討や、職員全体でCS活動への理解を深めることも課題として挙げられた。相可小学校、佐奈小学校においては、地域講師やボランティアの方の高齢化により、新しい人材の発掘も課題となった。

２ 学校・地域の連携について

（１）成果

勢和中学校区では、今年度は、昨年度よりも地域のボランティアやふるさと学習（生活科、

総合的な学習時間）を通して地域の方々と連携・協働しながら進めることができた。

相可小学校や佐奈小学校においても、学校運営協議会の設立により、教育課題について相談することができ、学校現場とは違った見地から意見をいただき、参考にすることができた。

（２）課題

勢和中学校区では、各校の職員が地域の方々とつながりをもう一度見直す必要があり、地域の方々と連携するだけでなく、協働を意識して活動を進めていくことが課題として挙げられた。また、どの学校においても、地域との連携を維持するための人材の確保は課題である。

Ⅳ 次年度の方針

今年度成果のあった勢和中学校区及び相可小学校、佐奈小学校については、次年度も今年度の内容を更に精査し進めていくことで教育活動の充実を図っていく。また、次年度新たにCSを導入する学校においても、今年度のこれらの取組を参考に、「地域とともにある学校づくり」を目指して取り組んでいく。